

12月は大気汚染防止推進月間です。

例年、12月は自動車交通量の増加、ビルや家庭の暖房の他、気象条件の影響等により、大気汚染物質濃度が高くなる傾向があります。環境省では、毎年12月を大気汚染防止推進月間として、きれいな空を守ることの大切さを呼びかけています。

大気環境を守るための、環境省からの提案です。

○自転車や電車の使用を心がけましょう

冬に空気が汚れる理由のひとつに、自動車交通量の増加があります。天気のいい日は出来るだけ自転車に出かけるなど、移動の際には、徒歩や自転車、公共交通機関の使用を心がけましょう。

○暖房の使用を控えましょう

過度の暖房使用は空気が汚れる原因となります。暖房は室温20度で、重ね着などの工夫を。ウォームビズやウォームシェアで暖かな冬をお過ごし下さい。

○エコドライブを実践してみましょう

自動車に乗っていても環境のために出来ることがあります。まずは、ふんわりアクセル「eスタート」から始めてみましょう！

○大気汚染の防止について考えてみましょう

ガソリンや溶剤などに含まれる揮発性有機化合物(VOC)は、光化学スモッグを起こす原因物質です。私たちの生活の中でも、VOCを含むスプレー製品を使わないなど、大気環境のためにできることがあります。

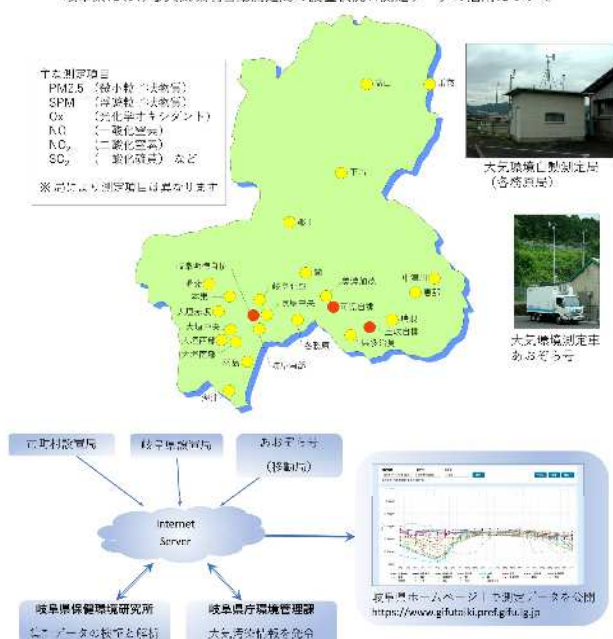
○野焼きをやめましょう

野焼きはPM2.5濃度の上昇に影響を与えることがあるため、稲わら等を有効利用することによって、野焼きをやめましょう。なお、野焼きは法律により原則として禁止されています。

大気汚染常時監視テレメータシステム

城守県内には大気環境自動測定局が25局（国19局、岐阜市4局、大田市2局）、設置されており、県内の大気汚染状況を常時監視する体制を構築しています。大気汚染物質の濃度が一定の限界を超過した場合に行われると考えられる緊急対応の場合には大気汚染警報を発令しています。なお、これらの測定データ（数値値）は岐阜県公害センターページで公開しています。

岐阜県における大気環境自動測定局の設置状況と測定データの活用について



微小粒子状物質(PM_{2.5})の成分分析

【PM_{2.5}について】

PM_{2.5}は直径2.5μm(1μm(マイクロメートル)=1mmの1000分の1)以下の非常に小さな粒子のため、肺の奥深くにまで入り込みやすく、ぜんそくや気管支炎などの呼吸器系疾患や循環器系疾患などのリスクを上昇させると考えられます。

【PM_{2.5}の発生源】

PM_{2.5}の発生源は非常に多岐にわたります。

一次発生源：自動車や工場などからの排ガス、野焼きなど
二次発生源：化学物質が大気中で光やオゾンと反応することで生成

【PM_{2.5}の成分分析】

PM_{2.5}は様々な成分で構成されており、発生源によって成分比率が異なります。PM_{2.5}の成分を専用の分析装置を用いて測定することで、PM_{2.5}の発生源解析や排出低減策のためのデータを得ることができます。

イオン成分 8項目

トリアム、フルニウム、カリウム、カルシウム
スズ、鉛、チタン、バナジウム、クロム、マン
ガン、鉄、コバルト、ニッケル、銅、亜鉛、モリブ
デン、銀、白金、パラジウムなど

無機成分 30項目

、トリウム、アルミニウム、カリウム、カルシウム、スズ、鉛、チタン、バナジウム、クロム、マンガン、鉄、ニッケル、コバルト、銅、亜鉛、モリブデン、銀、白金、パラジウムなど

炭素成分 8項目 -

七、機放罪、元罪從從男



【PM_{2.5}の成分分析結果】

年平均値と成分比率

